

7月26日午後2時開演 前売り二千円

篠笛教室開催・大人二千円高校生以下千円・当日午前10時



竹田 弘樹



門倉 貢



サラバンラマ



狩野 恭一



シベリアの大地の音を音楽に
ハトラエフ夫



→パンチヤラマ



→金子竜太郎

女子ユニット初来日



サハ共和国女子太鼓ユニット「キース・ホトン」



→ジャズトランペッター唐口
一之 ↓愛川高校和太鼓部
←卒業生ユニット「打縁」
トランペットの起源とされる
アジアの単管フツパ(ウズベキ
スタンのカルナイ)



中津川弁財天第5回愛川町音楽祭

アジア・シルクロード音楽フェスティバルー笛と太鼓の祭典

日時:7月26日(土)開場午後1時半
開演午後2時
場所:愛川町文化会館大ホール
チケット:大人2500円
(前売2000円)
小中高生無料(先着100名限定)
申込方法は裏面ご参照



問い合わせ先
NPOユーラシアンクラブ・愛川サライ
住所:愛川町中津6314-1
電話046-285-4895
FAX046-265-0167
090-3814-5322(大野遼)
paf02266@nifty.ne.jp

主催: 笛と太鼓のフェスティバル実行委員会

共催: ロシア連邦サハ共和国青少年太鼓ユニット「ティム」、「キース・ホトン」

後援: まちづくりネットワーク愛川

協力: (財)繊維産業会 神奈川県立愛川高校和太鼓部/卒業生ユニット「打縁」

愛川相模太鼓 ひまわり会 仙台下クラブ 愛川町自然観察会

カムイミタラ イーグル・アフガン復興協会 モンゴル・フフ・クラブ

企画制作: NPO法人ユーラシアンクラブ・愛川サライ



愛川町の中津川の地下洞窟から姿を現した江ノ島妙音弁財天

愛川町文化会館

(愛川町庁舎隣接)



TEL:046-285-6960

地域の伝統芸能の継承

● 全国に例のない「笛と太鼓のフェスティバル」

愛川町には、地域のコミュニティを支える伝統芸能が息づいています。半原神社の奉納芸能として親と子どもが支えている子供囃子、諏訪神社へ水への願いを込めて奉納される三増の獅子舞。日蓮宗妙誠寺の住職伊藤智久さんが継承する雅楽、県下有数の入賞校となった愛川高校和太鼓部。愛川相模大鼓や半原清流太鼓などが活発に地域と連携した活動を続けています。その特色は「笛と太鼓」。日

今回は日本の地域文化を支える篠笛の奏者として世界で活躍する狩野恭一、中央アジアの単管ラッパ・カルナイを起源とするトランペット奏者唐ロー一。そしてサハの子どもたちを指導して5年、とサハ共和国の太鼓文化の交流の要となっている世界的和太鼓奏者金子竜太郎と喉の魔術師ハトラエフ夫妻。世界の横笛の起源とされているネパールの横笛・パンスリの天才で、ネパールの国民的ミュージシャン・パンチャラマと弟のサラバンラマを中心に活動するユニット「チョウタリバンド」です。いずれも高度に洗練された世界標準のプロの演奏をお楽しみください。笛と太鼓のまちは世界一流のプロと連携します。

● ロシア連邦サハ共和国と鼓童の交流が形を変えて愛川町で結実

← (地図) サハ共和国、ネパールと日本

★★★

サハ共和国の芸術家と19年の交流。愛川町で結実、まちはつくりと合体

NPOユーラシアンクラブは、1997年以降、毎年のようにロシア連邦サハ共和国の芸術家ハトラエフ夫妻を招聘しアジア・シルクロード音楽祭を全国各地で開催してきました。佐渡島の世界的和太鼓集団「鼓童」を訪問し、指導を受け、さらに金子竜太郎氏がサハを訪問し、和太鼓指導が実現。大野遼は、鼓童のシベリアコンサートツアー、劇作家・演出家としても著名なサハ共和国文化大臣アンドレイ・ボリソフ氏のオペラ「キース・デビリエ」日本語版総合プロデュース(彩の国さいたま芸術劇場大ホール)を手がけ、2006年サハ共和国国民栄誉賞を受賞。2005年、支部愛川サライ設立後愛川町で、アジアを視野に交流事業を続けてきましたが、2009年頃から、サハ共和国の子供を日本に派遣し和太鼓の研修を受けさせたいという要望が届き、愛川町町民活動応援事業の中に位置づけ、小中学生を中心とする16人の代表団を愛川町に招聘。神奈

川県立ふれあいの村や繊維産業会館で宿泊、食事や送迎に愛川町町議を含む町民の協力を得て、県立愛川高校武道場で和太鼓研修を一週間行い、2010年8月5日愛川町で開催された第1回音楽祭で成果が披露されました。2011年にも研修の要望がありましたが、3月11日に発生した東日本大震災と原発の溶融という異常事態を踏まえて中止、この間、金子竜太郎氏は、2年間サハ共和国を訪ね、研修しています。今年は、2月1日、首都ヤクーツクでの5周年記念コンサートに打撃のリーダー 網島健司、愛川高校和太鼓部創設者 赤川猛さんと参加、愛川町との交流を大変評価する両親や学校関係者、サハ共和国の太鼓文化再生への熱い気持ちに触れました。昨年(18人)に続き、7月21日から女子ばかりの太鼓ユニット「キース・ホトン」一行13人を招き、曲作りに取り組み、研修には、世界で活躍するプロの女性和太鼓集団「悟空」も参加、将来の交流を話し合っています。今後への期待大です。6月の夏至祭の際、サハ共和国に「大野遼」の名を冠した湖が誕生、太鼓文化再生の拠点となる音楽研修センターが設置される予定です。交流に弾みがついています。

★★★

← 出た!? 弁財天でアジアとつながる水源のまちはつくり

愛川町の町名のもとになった中津川には、川底に洞窟があって、江ノ島の洞窟とつながっており、ある時弁財天が地下洞窟を歩いてやってきて、角田・戸倉の弁天の淵で地上に姿を現して一休みしたあと、さらに洞窟に戻り、上流の塩川滝まで歩いていき、滝上にある江ノ島の淵まで訪ねたという伝説が、民俗学者・大塚博夫さん(元愛川町文化財保護委員長)の手で記録されています。これは、井戸神さま、水と川の女神・弁財天(インドのサラスヴァティ:中央アジア・アフガニスタンのアナーヒター)が地下水脈を歩いて水源を訪ねる物語です。

緑あふれる里山と中津川には奈良時代以前ヒマラヤからヒンズークシ山脈の山麓で生まれた歴史文化が眠っています。私たちは、志のある方々と一緒に、「まちはつくりネットワーク愛川」に結集し、訪れる人を癒すホッとさせる空間を大切に、文化芸術のまちはつくりを進めることにしました。

弁財天は、インドでもネパールでも中国でも、水と川、子育て、学問と芸能の神様。「アジアの時代」「自然との共生の時代」「子供の時代」という時代の課題にぴったりの女神。弁財天が地下水脈を歩いて水源を訪ね、地上に姿を現したという愛川町のまちはつくりのシンボルにふさわしいと考えています。

アジアとつながり、地域の伝統芸能を継承発展させ、自然豊かなホッと空間を生かした観光文化のまちはつくりの環境として「ホッとベンチプロジェクト」そしてこの「笛と太鼓のフェスティバル」を開催しています。太鼓文化再生を推進しているサハの人々と連携して、地域おこしの起爆剤になるよう、盛り上げていきたいと希望しています。

● アジアとつながる地下水脈伝説です

本とアジアのメロディラインとリズムを形作ってきた大切な音楽芸能の軸となっています。NPOユーラシアンクラブ・愛川サライが愛川町で活動を始めて9年。音楽祭を始めて5年。日本で例のない「笛と太鼓の音楽祭」を軸に笛と太鼓のまちはつくりを一層推進し、地域の伝統芸能の継承と、子供たちの中から世界的な笛と太鼓のミュージシャンが誕生することを心から願っています。

アジア・シルクロード音楽フェスティバルチケット購入申込書

氏名		同伴者お名前、人数	・振込先:相愛信用組合中津支店 普通012 8190 NPOユーラシアンクラブ 愛川サライ
◎チケット代金	大人__枚__円	子ども__枚	・FAX:046-265-0167
電話・ファックス	()	メールアドレス	